こんにちは 松坂みち子 です

日本共産党市議会議員　松坂みち子の活動報告
＜ №34　2011. 6. 12＞　　連絡先　402-1622

国保は社会保障

民主商工会が主催した国民健康保険の学習会に参加しました。

戦前にも国保はありましたが、戦争に向けての「健民健兵政策」としてのものでした。戦後新しくなった国保では、第１条に「この法律は、国民健康保険事業の健全な運営を確保し、もって社会保障及び国民保険の向上に寄与するものとする」とあるように、社会保障としての国保になりました。個人や相互扶助ではどうしようもない医療に対し、本人と公的機関で社会的に対応するというように、憲法２５条にもとづく生存権を実体化したのです。

問題は保険料の高さです。その第一の原因は、政府が補助金を引き下げたことにあります。また、他の健康保険と違って、全額自己負担であり、収入に関係ない保険料（均等割・平等割）がかかっていることも原因の一つです。そして、前年の収入が基準になっているため、払えなくなることもあります。その上に、収納率を上げるためにと制裁を強化し、保険証の取り上げから始まり、現在は差し押さえも増えています。生命を守るはずの国保が生命を奪う事態にもなっています。

現在市では、国保には人口の約３割（世帯では４割）の方が加入していますが、仕事をしている間は現在社会保険でも、退職後にはほとんどの方が加入することになります。保険料を引き下げ、払える国保料にし、生命を守ることは急務です。

みち子のひとりごと
情けない．．．

被災地では、なかなか進んでいないように見える、救援・復旧。国民からの善意の救援金も、まだ多くは被災者には渡っていません。「被災者・被災地支援」、まずはこのことで力を合わすべき時に、永田町では空虚な政治劇場が繰り広げられ、いったい何を考えているのか、情けない。菅さんが辞めたら、大連立したら、事はスムーズに進むのでしょうか。救援・復旧・復興のためにと考えれば、党派を超えて協力できるはずです。それをしないで大連立にこだわるのは、結局大臣のいすがほしいだけ？と思わずにはいられません。

大きな政党が政権争いをしている時でも、共産党は国会で被災者支援の質問をし提案をし続けています。避難所での一人当たりの食事代を増やすことや、二重ローンを抱えることのないように手だてをとること等々。しかしマスコミで取り上げないのはどうしてでしょうか。情けない。

先週の「ひとりごと」の冒頭で、96か月というのは48か月の間違いです。やけに長いなとは感じていましたが、変に思いこんでしまっていました。情けない。

東日本大震災 救援ボランティア記2

ふじい健太郎

5月22日夜、和歌山を出発して、翌日夕方に岩手県大船渡市にある日本共産党の事務所に到着。

すぐ被災地の状況の説明を聞きました。事務所建物への被害はなかったようですが、津波浸水が床上まできたそうです。

その後、自衛隊が小学校校庭に設営した風呂で汗を流し、持ち込んだ炊飯器と食材で自炊。明日からのボランティア活動に備え、共産党事務所で寝袋にくるまって就寝。

翌朝、市の総合福祉センターに開設されているボランティアセンターで受けつけ手続きをし、津波土砂で埋まった側溝の清掃を丸一日行いました。

その翌日は、和歌山から持ってきた「甘夏」「梅干し」「醤油」「米」「日用雑貨」「衣類」などの無料配布青空市を2か所で実施。店開きをして宣伝カーでお知らせしてまわると、たちどころに多くの人が現れ、大歓迎を受けました。

ご存知ですか？　「要援護者登録制度」

障害者や一人暮らしの高齢者など、災害の時に自力や家族だけで避難することがむずかしい方に対して、情報を伝えたり一緒に避難するなどお手伝いしてくださる方とともに、あらかじめ登録しておく制度です。

対象となる方には市からお手紙が届きます。届いたけれど、どうしたらよいのかわからないという方は、ご相談ください。